



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第二一七号）

冬至 十二月二十二日

## 伊勢春慶の箸

お正月用にと、漆塗りの器を出されるご家庭も多いのではないのでしょうか。漆器は日本、中国、タイなど漆を産出する国で発達した東洋独特の工芸品です。

伊勢にも「伊勢春慶」という漆塗りの伝統工芸があります。春慶塗は、室町時代初期に大阪堺の漆工である春慶が創始したと伝わり、岐阜県高山市の飛騨春慶や秋田県能代市の能代春慶、茨城県の粟野春慶などが知られています。各地の春慶の中でも伊勢春慶は、もともとは伊勢神宮の御用材の残材を使って箱を作り、漆を塗ったものが始まりという、伊勢らしい由緒をもつのです。

江戸末期から、明治、大正、昭和の頃にかけて量産され、日用品として東海地方をはじめ、全国に流通しましたが、時代とともに廃れてしまいました。

それが、今から十二年前に「里帰り伊勢春慶展」が伊勢で開催されたのをきっかけに伊勢春慶の会が発足され、「手わざのぬくもりを再生させ、次の世代に伝えたい」と地元で復興の取組がなされます。平成十七年六月、当時の伊勢市工芸指導所で復興した伊勢春慶に最初の刻印が打たれ、以来十年にわたり地道に作品が作られてきました。

復興した伊勢春慶は、量産品の頃のものとは異なり、赤みを帯びた色合いとなっています。これは、木地にベンガラ顔料を塗り、さらに漆も少し赤みがかったものを使用しているからとか。さらに木地は長野県の木目細やかな木曾檜であることを知りました。伊勢神宮の御用材は現在、木曾檜。やはり伊勢神宮ゆかりの檜を使っていることに復興伊勢春慶のこだわりを感じました。

新たな年を前に、私は伊勢春慶の八角箸を買い求めました。皆さまも良い年をお迎え下さい。

文 千種清美

